



みんなの力でみんなの幸せ

s a w a r a b i

さわらび

9

September
2007
vol.413



「タバコが有害なわけ
～息切れ・咳はCOPDのはじまり～」

福祉村病院院長 小橋 修



医療法人さわらび会創立45周年
記念講演会・懇親会開催



「タバコが有害なわけ 息切れ・咳はCOPDのはじまり」



福祉村病院
院長
小橋 修

高齢者は、ゆっくり歩いたり、日常生活に必要な諸動作をすべて自分の体調に合わせてゆっくりと行うので、気がつかないけれども、スパイロメータで呼吸機能を測定すると、十数パーセントの人にCOPD（慢性閉塞性肺疾患）が見つかります。早期に発見して適切な治療を開始すると、快適な生活が末永くできますので、すべてのドクターやナースがCOPDの基本の知識を身につけて診療に当たることが薦められています。

現在、死因別死亡率の第一位はがん、第二位は心臓・循環系疾患、第三位は脳卒中です。2020年には、COPDが第二位になると推定されて

います。最大の原因はタバコで、高齢人口の増加と地球規模での環境汚染、大気汚染が拍車をかけています。40歳以上のCOPD有病率は86%、60歳以上では十数%といわれています。寝たきりの患者さんでも、痰が常時多く吸痰操作を繰り返す患者さん、夜間無呼吸があると酸素飽和度が急激に下がるのみならず血圧低下をきたす患者さん、発熱に伴って酸素飽和度が急に低下する患者さんなど、換気血流比や胸部レントゲンやスパイロメトリーのいずれかひとつが測定されれば、福祉村病院の各フロアーに数名以上はCOPD候補がいることになるかもしれません。

痩せ型の人で、息切れ、咳、呼吸困難を主症状（ドライタイプ）とし、タバコが主要原因の肺気腫は、携帯用の酸素吸入器の発達と、治療薬の開

発によって長生きできるようになりました。一方、咳と痰が主症状（ウェットタイプ）で、太った人は慢性気管支炎と習いましたが、肺気腫と慢性気管支炎の病態は共通しているので、2000年頃から、世界的に統一した疾患名COPD（慢性閉塞性肺疾患）が使われるようになりました。

(1) COPDとは

「有毒な粒子やガスの吸入によって生じた肺の炎症反応に基づく進行性の気流制限を呈する疾患」です。肺や気管支に炎症が繰り返し起こり、痰が増え、痰を出そうとして咳が出ます。次第に肺胞が壊れ、呼吸の流れが悪くなり、かつ肺に大量の空気が残るために空気を吸い込むのが困難になり、息切れ、呼吸困難の症状が出てきます。進行すると肺胞での酸素と炭酸ガスの交換が不十分となり、慢性呼吸不全の状態になり、常時酸素吸入を必要とし、次第に心肺機能が低下します。感染などをきつ

かけに死に至ります。喫煙が主な原因となる「肺の生活習慣病」であり、喘息とは違う病気です。

(2) COPDの原因と炎症細胞

最大の原因は喫煙です。受動喫煙といつて他の人が吸っているタバコの煙を吸うことも原因となります。気道感染、粉塵、大気汚染も原因となります。COPDの炎症細胞は、好中球、マクロファージ、CD8+T細胞で、IL8、TNF- α 、IL6、IL13が主役を演じます。

(3) COPDの早期診断と早期治療

呼吸機能検査はスパイロメータという簡単な機器を用いて外来で容易に測れます。一般内科医や総合診療医にとっては心電図と同じ位有意義です。坂道がきつい、階段を上るのがきつい、冬に風邪を引くと、咳や痰などの症状が長引くといった人は、この検査によって早期診断ができます。よい吸入薬を使うとCOPDの進

行を緩めることができ、快適な人生を送ることができます。

(4) COPDとつまく付き合う方法

風邪でもないのに、咳や痰が続いたり、坂道の上りなど、軽い運動でも息切れがするようになり、はじめは年だろーと本人も気にしないうちに、COPDはゆっくりと進行し、着替えや入浴によっても息切れがするようになります。友達と同じ歩調で歩けなくなるので、外出が減り、運動量が減り、気分もうつ状態となり、引きこもったり、社会的に孤立したりします。やがてベッドから出られなくなり、寝たきりになります。この間食欲も落ち低栄養となり、骨粗しょう症も進行します。COPDは肺だけの疾患ではなく、全身疾患である」といわれ、できるだけ早期から症状を軽くするための治療や、次に掲げる毎日の自己管理をしっかりとすることが大切とされるようになりました。

- ・完全に禁煙する。
- ・自分の使っているCOPDの薬をし

っかりと理解して有効に使用する。

- ・インフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチンを接種して気道感染を予防する。

・適度な運動をし、かつバランスのとれた栄養を取る。

・体力をつけ、同時にいろいろなストレスをコントロールできるようにする。

・腹式呼吸法で、呼吸をコントロールする。

・酸素療法を利用する。

(5) 禁煙教育

喫煙歴、禁煙経験の有無、喫煙する環境、禁煙状況、喫煙を止めようと思った理由、再喫煙のきっかけ、タバコ依存度(タバコ依存スクリーニングテスト)、必要に応じてうつ評価も行います。これらの情報から、現在禁煙を受け入れられる状況を次の三段階に分け、それに応じた対応をします。

〔禁煙したいと思っっている場合〕

1、タバコの害についての情報を提

供する。

・タバコによる一秒量の影響を説明する。

・一日20本吸っている人でも健康が維持できる人と、COPDを発症する人がいる。

・COPDを発症すると、坂道や階段での息切れが出現し、徐々に進行する。直ちに禁煙することで、肺機能の低下速度は確実にゆっくりとなる。

2、血管系の障害

ニコチンは血管を収縮させ、活性酸素を出すので、血管内皮細胞を傷害する。酸化炭素は慢性的な酸素欠乏を招き多血症をきたし、血液が濃くなり、動脈硬化、脳梗塞、虚血性心疾患、閉塞性動脈硬化症の確率を増す。

3、悪性腫瘍

肺がんだけでなく、喉頭がん、口腔がん、食道がん、胃がん、肝臓がんなどをもちます。

4、美容関係

しみ、しわが増える。歯肉の変色、歯の色素沈着がおこる。

5、経済面

タバコ代のみならず、タバコによる病気の治療代が増える。

〔禁煙の気持ちがあ固まっている場合〕

合)・〔禁煙したくない場合〕

1、禁煙したくない理由を確認する。

2、喫煙を続けることによるからだの悪影響を説明する。

3、精神疾患がある場合には、タバコは強力な抗うつ薬であり、禁煙により「うつ」が急に増悪することがあり、自殺が増えるとも言われているので、専門医に相談し、密な連携が必要である。

急性増悪の予防、患者教育、家族教育、COPDの栄養教育(痩せタイプに対する栄養指導と肥満タイプに対する栄養指導)、運動・呼吸リハビリテーション(口すぼめ呼吸と腹式呼吸)、日常生活動作の工夫と排痰法(体位排痰、咳そう、強制呼出、振動呼吸陽圧法)などについては次の機会に述べます。

9月1日は「言語聴覚の日」

福祉村病院での「取り組み」

今年より、9月1日が「言語聴覚の日」、その前後1週間が「言語聴覚週間」となりました。言語聴覚士は様々なコミュニケーションの問題の本質や発現メカニズムを明らかにし、対処法を見出すために検査・評価を実施し、必要に応じて訓練、指導、助言、その他の援助を行う専門職で、当院でも言語聴覚士によるリハビリが行われています。

当院では言語聴覚士という資格ができるかなり前から、言語療法や嚥下に注目し、様々な取り組みをしてきました。言語訓練室では、絵カードを使ってことばを思い出す練習をしたり、麻痺がある方では口の運動をしたり、ことばをはっきりと発音する練習等をしています。時には歌をうたったり、パズルをしたりすることもあります。入院生活での不安を聞くこともあれば、人生の大先輩

の若かりし頃の武勇伝(?)の教々や、昔の生活、文化、戦争体験などの様々な貴重なお話を伺うこともあります。居室ではあまり話をしない方でも訓練室ではたくさん話してくださいませ。日付の感覚や季節感が失われないよう、季節感あふれるカレンダーを毎月作って配ったりもします。訓練を通して、ことばを取り戻すことの喜び、会話が楽しいものであるということを出していただけばと思います。

最近では、高齢化の影響からか「嚥下障害」の患者さんが増えています。3年ほど前からは、飲み込みの訓練を行う際に口の中を手軽にきれいにできる「くるりーナブラシ」や「口腔ケアアイツシュ」などを導入してもらい、手軽に口の中のケアを行えるようになりました。口の中を日々きれいに保つことで、食事を口から食べ続けられるという方もたくさんいらっしゃいます。

ここで、訓練により効果が出た事例を紹介します。

Aさんは脳幹出血のため四肢麻痺で、発症時からの気管切開の瘻孔がふさがらず、声を出すことができず、口から食事をとることもできません。口から食事をとることもできず、栄養摂取は全て胃ろうから行っていました。まずは食べ物を使わない嚥下訓練から開始し、10日後にゼリーをスライス状にしたものを少しずつ食べはじめました。当初はむせることもありましたが、それも次第に減り、とろみをつけたお茶も飲めるようになりました。「もっとたくさん食べたい」との希望によりベ-

ーさん食を開始。一時はむせがひどく中止となったものの、持ち前のガッツでさらに訓練に励み、入院から約1カ月半で昼食を口から食べられるようになりました。食べることに自信がついたようで、「食事の回数を増やしたい」とおっしゃるまでになりました。

できるだけ長い期間、安全において、口から食べていただけるよう、今後も工夫を重ねてゆきたいと思っています。(本橋)

認知症ケアについての勉強会が行われました

医療病棟においても年々、怪しい認知症の患者さんが増えています。そのような患者さんへの対応の仕方を勉強したい、との声が職員の中からあがり、七月三十一日、八月二日の二日にわたり、福祉村病院大会議室にて、山本孝之理事長による認知症のケアについての講義が行われました。

日頃の業務の中で疑問に感じていることや困難に思っていることなど、事前にアンケート調査を行い、一日には易怒性、暴力、介護拒否、帰宅要求などに対する対応の仕方、二日は転倒の恐れがあるが自分で動きたい患者さんへの対応や、認知症を理解していないご家族への対応の仕方など、アンケートの結果に沿った内容で、分かりやすくお話していただきました。計百名の職員が参加し、認知症に関する理解を深めました。(鈴木)



○2007年7月12日講義

「近代医学に貢献した日本の医学者

— 北里柴三郎を中心に —

東京大学客員研究員 金井 芳之

近代医学の始まりがいつを指すのかは異論のあるところであるが、私は明治中期と考えている。その理由として、第一回医学生理学ノーベル賞がフォン・ベーリングに授与されたのが1901年であったことを挙げたい。受賞の対象は破傷風抗毒素（今の抗体）の発見であって、その業績は偏に日本の誇る北里柴三郎によって成されたと言っても過言ではないだろう。北里は1852年東京医学校（今の東京大学医学部）を卒業、暫くしてドイツのロベルト・コッホのもとに留学し、そこでフォン・ベーリングとの共同研究で前述の偉業を成し遂げたのである。当時の医

学研究の花形は細菌学で、ロシア、ドイツ、フランスの学者が主流を占めていた。北里は彼らに伍してなお余りあるものがあつた。これらの研究は明治中期に手掛けられたものである。

その頃日本では脚気が猛威を奮い、とりわけ陸・海軍の兵力の弱体化をきたし、その予防におおわらわであつた。陸軍では軍医総監、森陽外らが根柢不十分な細菌学説を、他方、慈恵医大の創始者で、海軍軍医総監であつた高木兼寛は公衆医学的知見から栄養欠乏説をそれぞれ提唱し、真つ向から対立していた。時の偉大な細菌学者北里は細菌説を否定、民間学者高木の栄養欠乏説を支持したため、ドイツからの帰国後、官つまり鴨外を中心とする東京帝国大学派から冷遇された。その時財政援助の手を差し延べたのが慶應義塾大学創始者、福沢諭吉であつた。福沢は北里のために伝染病研究所（室？）を設立して北里を支援した。北里は1894年、香港で流行した疫病からペスト菌を同定・発見した。

爾来、東京帝国大学医学部から若

い研究者が次々と北里のもとに参集した。その中には赤痢菌を発見した志賀潔や梅毒の特効薬であるサルバルサン606号を合成した秦佐八郎がいた。いずれも世界的な偉業である。敢えて例外とでも言おうか、北

里の弟子で国内外を通して、最も名の知られた野口英世がいた。検定で医者になった野口は、東京帝大出の多い研究者の中で引目を感じ、在籍短くして渡米してしまつた。それが効を奏して、梅毒スピロヘクター（正しくはトレポネーマ）を発見、さらには黄熱病の研究で世界トップの医学者に登り詰めた。不幸にも黄熱病に感染して死亡するわけであるが、野口の胸像はアメリカ・ペンシルベニアやアフリカのガーナを始め、多くの場所に設置されていることでも良く知られている。

元にもどるが、北里の創立した伝染病研究所は東京大学医学部研究所を筆頭に北里研究所（北里大学）へと連綿として継承されている。なお慶應義塾大学医学部の初代学部長は北里であつた。これも福沢諭吉の配慮であつた。医者ではなかつたが、

○2007年7月12日講義

「障害者の気持ちに寄り添う支援

〜ピアカウンセリング〜

身体障害者療護施設 珠藻荘

副施設長 田中 力

障害者の気持ちに寄り添う支援の大切さと障害当事者が障害者を支えるピアカウンセラーの役割についてお話をさせていただきました。

私は現在、たまたま障害者生活支援センターで相談業務に就いています。日々、在宅の障害者をお持ちの方々、その家族の様々な相談を受ける中で常に「相手の立場になって・」を念頭に置き話を聞かせていただくようにしています。相談者と悩みを共感することで信頼関係が生まれると私は思っています。それと同時に信頼関係が成り立たない間は「寄り添った支援」、寄り添うことなどさせていただけなと思います。

夏休み親子福祉体験講座

夏に輝く子ども達の笑顔

夏

の青空の広がる8月5日、福祉村では福祉教育や地域

交流をより深める目的で、夏休み親子福祉体験講座が開催されました。

お申し込みをいただいた親子100組350名を超える方々が参加して

くださり、子どもたちの元気な笑い声が響き渡り、大変賑わいました。



「障害を乗り越えて」
珠藻荘 田中副施設長の講演

10時より第三さわらび荘にて開会式が開かれ、山本孝之理事長の挨拶に続き、珠藻荘の田中副施設長より「障害を乗り越えて」という話をさせていただきました。身体に重い障害をもってから、今日までどのように障害を乗り越えてきたか、という講演内容に、子どもたちだけではなく、参加されたご家族の皆さんも真剣に聞き入っていました。

また、スパイカーDリーチームの山本左近選手より、夏休み親子福祉体験講座に参加された皆さんへのビデオメッセージやサイン色紙などのプレゼントもあり、思わぬ出来事に会場も大変盛り上がりました。

開会式終了後は、障害者や高齢者の施設の見学が行われ、それぞれの

施設にはどんな特色があるのか、どんなことが行われているのかなど、施設の利用者の皆さんにもご協力を

いただいて紹介をさせていただきまして。説明が終わると「ありがとうございます」と大きな声でお礼を言う子どもたちの姿が印象的でした。

「福祉体験」
お年寄りや障害のある方と一緒に

昼からは、それぞれの施設の特色を活かした体験コーナーが行われました。特別養護老人ホームの第二さわらび荘では、あや取りやけん玉などの昔の遊びや、布おむつたたみの体験が行われ、入居されている皆さんと子どもたちとで楽しく交流していました。知的障害者授産施設の明日香では利用者のみなさんと一緒に太鼓を叩いたり、クッキーを作ったりと、こちらも大変な盛り上がりで



① 田中副施設長による講演
② カサテローザの入居者と子供たちの交流
③ 山本左近選手のサイン色紙プレゼント

した。

スタンブラリーでは各体験コーナーに参加してスタンプを集めていただき、景品として明日香のクッキーをプレゼントさせていただきました。福祉村のしいたか山にもチェックポイントが用意され、子どもたちは豊かな自然の中をのびのびと走り回っていました。

「施設の利用者が主体となって助け合って生きていくこと」

この体験で、年をとっても生きが

笑顔輝く
「ありがとう。」
・夏休み福祉体験学習より

社 会福祉法人さわらび会の各施設は、日頃から小学生、中学

生、高校生等の皆さんの福祉体験学習やボランティア体験の場としても、重要な社会的役割を果たしています。

この夏休み期間中には、湖西市内の小学生（二十九名）が親子福祉体験の一環として、また、豊橋市内の

いのある日々を過ごしているお年寄りや、思いがけない事故や病気で重い障害を負っても一生懸命に自立を目指してがんばっている人たちと接することで、生きる勇氣や感動を得たのではないのでしょうか。中には障害のある方と初めて話をした人もいるでしょう。同じ人間として理解し合い、助け合って生きていくことの大切さを身を持って知っていただけたのではないのでしょうか。

また保護者の方とご家族や地域にある福祉の問題などについて話し合中学生（五十九名）が福祉体験学習や職場体験学習として、さらに、豊橋市及び豊川市内の高校生（二十二名）がボランティア体験学習として、各施設で有意義な体験と想い出を刻みました。

訪問していただいた多くの皆さんが、「利用者の方の笑顔に優しさを感じました。」との感想を寄せてくれました。（以下、感想の一部です）
*施設では性格がまったく逆でも、仲間として楽しく暮らしていること

うきっかけになっていただければと思います。

お年寄りも障害者も豊かな生活が送れるように、みんなが暮らしやすい社会になるために、子どもたちにはこのような体験を多くしていただけたらと思います。これからも、小中学生の体験学習やボランティア活動、福祉村キャラバン隊などを通して、子どもたちの豊かな成長の手助けができるよう、利用者の皆さんと職員が力を合わせて様々な活動を行ってまいります。

（石田）

に感動しました。クラスでは、イジメにまではいかなけどケンカが多い。施設で暮らしている人を見習おうと思いました。

*知的障害の人でも、一生懸命働いていて、とてもいきいきとしているなあと思いました。それを見て、自分もがんばらなくてはと思いました。
*普通の人といっしょで、障害者だからといって特別になるわけではないということに気づきました。

（編集委員 土井）



●7月から、山田道明様に書道教室を開いて頂いています。この日は中学生ボランティアにも一緒に参加して頂きました。（第二さわらび荘）



●はじめての車イスは、小さな段差や斜面が難しかったという声がありました。

創立四十五周年 記念講演会・懇親会開催

去

る八月十八日、ホテルアソシア豊橋にて、医療法人さわらび会創立四十五周年記念講演会・懇親会が行われました。今回の講演

会は、創立四十五周年にあたり、お世話になった皆様に有益な情報を提供することで恩返しをしたい、という山本孝之理事長の考えにより開催されました。



講演会は山本孝之理事長の挨拶に

始まり、医療法人共和会 共和病院

老年科部長 河野和彦先生と国立

長寿医療センター 包括診療部長

遠藤英俊先生の二人の講演が行われ

ました。講演会には二百名を超える

大勢の方がお見えになりました。

「わが国の認知症診療と私の歩み」

医療法人共和会 共和病院

老年科部長 河野 和彦先生

河野先生の講演では、まず認知症のはじまりと症状、診断方法についてお話ししていただきました。以前、福祉村病院での当直で、昼間に活動するアルツハイマーの患者さんと、夜中に活動する脳血管性認知症の患者さんの二人認知症の違いに気づかれたそうです。

認知症なのに、うつ病と誤診され



るケースが多くあるので、医師は認知症の診断能力をつけなければならぬとおっしゃっていました。

アルツハイマー型認知症は、せん妄などの付随症状がない患者が多く、本当は診断しやすい認知症であり、他の混合型、無症候性脳梗塞を持った認知症などは、画像診断だけではうつ病などと誤診されることが多いそうです。

また、認知症の患者さんへの薬の処方の方針についてお話ししてくださいました。薬の処方を考える時に最も大切な概念として、周辺症状が陰

性症状（無気力・無関心・無言・うつ）なのか、陽性症状（徘徊・暴力・独語・妄想・幻覚など）なのかということと、中核症状がどのようであるかを判別します。興奮系・抑制系の薬を処方する際の常用薬、屯用薬の使用法などもご説明くださいました。抑制系薬剤のメリットとして、陽性症状を抑制するだけでなく、集中力を増して、潜在能力を引き出したり、人間性が豊かになったりすることがあるそうです。

患者さんのことを一番知る家族が、薬剤を服用した時の患者さんの様子等を把握し、疑問等が生じた場合は随時医師に相談するなど、医療に積極的に参加することの大切さを話されています。

また、ピック病、レビー小体型認知症、クロイツフェルトヤコブ病について、具体的な症例をCT画像等を用いてご説明くださいました。

河野先生の「ドクター・コウノの認知症ブログ」には、全国から多くのアクセスがあるそうです。

「認知症の医療ケア

～過去・現在・未来～

特定医療法人国立長寿医療センター
包括診療部長 遠藤 英俊先生

遠藤先生は大きくわけて、認知症について、認知症と改正介護保険制度、地域社会の役割についてお話されました。さらばひ会のこの四十五年の流れと共に、認知症はげげ↓痴呆↓認知症と名称が変わりました。

そして、それを取り巻く社会の状況もめまぐるしく変化しました。先生は現在までのわが国の高齢者介護の発展、特別養護老人ホームの整備、介護保険制度の創設、介護保険制度のねらい等についてお話されました。そして、健康な高齢者の加齢に伴うもの忘れ（体験の一部を忘れる、もの忘れを自覚、日常生活に支障はない、きわめて徐々にしか進行しない）と、認知症のもの忘れ（全体を忘れる、自覚がない、作話、日常生活に支障をきたす、進行性である）の違い、認知症を呈する疾患、主要な変性型認知症の特徴などについて、ご

説明くださいました。

また、先生は国立の機関にご勤務され、厚生省関連やNHKなどのお仕事も多くされていますので、介護保険関係の最新情報についてもお話してくださいました。

今後の介護保険の動向、高齢者のまわりを取り巻く環境、問題等について話され、今後はプライマリケアと臨床医のネットワークが大切であり、かかりつけ医、サポート医をはじめ、地域社会が認知症を支えるための様々な働きかけをすることが大切であるとお話されました。



また、広義の介護予防（地域支援事業）として、閉じこもりの予防（外出の機会をつくる、趣味活動）、認知症の介護予防（運動、ダンス、回想法、音楽療法）、生活習慣病予防が大切であり、「対話で始めるパソコン回想法」など、パソコンを使った。今回の同想法を紹介してくださいました。

今回、お二人の先生方は、様々な角度から認知症を捉え、「認知症の早期発見、早期治療がとても重要である。」と話されていました。そして、「山本病院・福祉村病院での経験があったからこそ、現在の私がいる。」とも話されていらっしゃいました。



講演終了後は、会場を隣に移し、懇親会が行われました。山本ゆかり理事の挨拶があり、愛知県医師会代議員会副議長の森澄先生よりご祝辞をいただきました。その後、福祉村病院 小橋修院長の発声で乾杯、百

六十名を超える参加者の皆様は食事を楽しみながら、昔の同僚や久しぶりに会った方々と懐かしく昔話をされるなど、とても有意義な時間を過ごされました。最後に福祉村病院長 寿医学研究所の堀映所長より挨拶があり、一本締めで締めくくりました。

森澄先生のご祝辞と懇親会の様子



● SPYKER FORMULA ONE TEAM
<http://www.spykerf1.com>



スパイカーよりF1復帰 第1戦

左近選手が 再び挑む夢舞台

DREMEL
BIG ON DETAIL

● Photo/IMAHARA Taro (TIPP)



2007 F1レーススケジュール

開催日 開催国・開催地

- 09/09 ●  イタリア
- 09/16 ●  ベルギー
- 09/30 ●  日本
- 10/07 ●  中国
- 10/21 ●  ブラジル

Schedule of Sakon



8

月5日(日)、F1第11戦ハンガリーGP決勝がハンガロンリンクサーキットで行われ、昨年のブラジル最終戦以来約9ヶ月ぶりに、山本左近選手がF1の舞台に帰ってきた。

突然のF1復帰のオファーがあったのは、前戦のヨーロッパGPが行われたニュルブルリンクのパドック。左近選手は「ちょうど僕はGP2のエンジニアとハンガリーGPへ向けての打ち合わせをした直後だったし、スーパーアグリのアストロドライバーでもあったから即答はできませんでしたが、心はひとつでした。今年、GP2でのレースを選んだのも、F1チームのアストロドライバー契約を結んだのも、すべてはF1でもう一度戦いたかったからです。」とすぐに決意は固まったようで、BCNコンベティションとスーパーアグリの双方と話し合い、了解を経て、スパイカーのファクトリーに向かったのは3日後の7月25日だった。すぐにシート合わせを行い、エンジニアとのミーティングを行うなど、7月下旬は本当に目が回るような毎日だったという。

テストもできないまま、ぶっつけ本番でのグランプリとなりましたが、やっぱりF1はいいですね。もちろん、ドライビングポジションが安定するようにシートを調整したり、スパイカーのクルマがどんなキャラクターなのかを学んだり、今年のプリザストンタイヤの比較を行ったり、やらなければならぬことはたくさんあったんですが、自分では去年よりも落ち着いてこなすことができたと思います。例えば、セッショ

ンで1度スピントしたんですが、あれも時間のない中でクルマの限界点を早く探りたかったからで、いい経験となりました。」と昨年のスーパーアグリでの経験は左近選手をたくましくしていた。

全曜日のフリー走行をノートラブルで走り終えた左近選手は、たった1日走行しただけで、翌土曜日の午前中に行われたフリー走行でチームメートのエイドリアン・ステイール選手にコンマ5秒まで迫るタイムを叩き出し、その実力を見せつけた。しかし、予選で左近選手に不運が襲う。

「タイムアタックを行うおうとホームストレートを通過したら、1コーナーのほうにピットアウトしていくクルマが1台あって、引っかかりなければいいなと思っていましたが、アンラッキーなことに最終コーナーで目の前に現れて、僕のアタックはフィになりました。」と、ルノーのジャンカルロ・フィジケラ選手の妨害を受け、タイムを伸ばしきることができなかったのだ。

迎えた決勝では、ホンダのルーベンス・バリチェロ選手をかわして順位を上げ、その後も快調にペースを上げていたが、突然のマシントラブルにより後輪が流れ、リタイアという残念な結果に終わってしまった。

今日のレースは、まず完走することが大切だったと思うし、それを目標としていたので、リタイアしたことはすごく残念。でも、レース後にエンジニアから「今週末初めてクルマに乗ったにもかかわらず、エイドリアンとそんなに変わらないタイムを出してきたことを評価している」と言われ

たので、あまりリタイアに終わったことを引きずらずに次のトルコGPに臨みたいと思います。」と常にポジティブの姿勢を崩さない。

また、マイク・ガスコイン氏(最高技術責任者/COO)は左近選手のポテンシャルについて聞かれ、「正直、彼のプロ意識にはかなり感銘を受けたんだ。彼の働きぶりはずばらしいし、英語もうまく話せる。ユーモアのセンスだって備わっているし、われわれヨーロッパ人のやり方やメンタリティを理解しているんだ。彼自身の仕事に専念してくれているしね。もし予選でフィジケラにブロックされていなかったら、エイドリアンのタイムに近づけていただろう。たぶん0.3秒以内には入れたんじゃないかな。彼は週末を通してスピードを上げることができていたんだ。」と語った。

スパイカーは、次のトルコGPから、Bスペックと呼ばれる新しいマシンを投入する予定となっており、そついった意味では、ぶっつけ本番で向かった今回のハンガリーGPは次のトルコGPへの良い準備になったのではないだろうか。次のトルコGPが左近選手にとっては、本当の開幕戦。巻き返しを期待したい。



施設長直筆の書で 季節感を



ジエゲム施設長・金井芳之

八月号は特集ということで、連載の俳句はお休み。そのため、九月号では八月号に掲載予定だった俳句をご紹介します。ちょっと季節感がずれますがご諒承下さい。何度か言い占しましたが、地球温暖化が予想以上に急速に進み、自然界の随所に何処か見慣れない現象や、光景が出現しているようです。人梅もその一つで、梅雨入り宣言も梅雨明け宣言も、出しづらい環境になっていきます。今回の俳句はおよそ七年もの間、地中生活をしていて、そろそろ地球上と言う外界に出たにも関わらず、出るに出不れず躊躇している蝉の心境を詠んだものです。一方で業を煮やして、せつせと地上に向向いてしまふ蝉の自然力を表した句も次のように詠んでもみました。「気象士も蝉には勝てぬ自然力」如何でしょうか？



さわらび日記

8月19日・7月16日・8月15日

■福祉村病院・ジエゲム
7月17日 病棟・さくら通り病棟家族会
18日 第一病棟家族会

19日 橋詰先生によるC.P.C.（通称家族会）
23日 山本理事長が社会福祉協議会の会場で出席

24日 岐阜県飛騨地区認知症介護実践者研究会にて伊勢弘之副院長が「認知症の医学的理解」について講演
25日 豊橋市社会福祉協議会主催介護者教室にて伊勢弘之副院長が「認知症介護の心な時どうするか」について講演
26日 デイサービスセンター「やき土産講演会」にて伊勢弘之副院長が「認知症について講演」

26日 さわらび大サ「ピアカウンセリング」
27日 田中力球理事長副施設長
朝倉ミズティング（理事長出席）
施設長会談（理事出席）
名古屋市長保健所主催認知症予防教室にて伊勢弘之副院長が「認知症の予防」について講演

31日 山本理事長が認知症のケアについて職員に講演
日本精神科看護技術協会主催講演会にて伊勢弘之副院長が「認知症の理解と看護」について講演

8月1日 宇原綱栄公談
3日 山本理事長が認知症のケアについて職員に講演
10日 社会福祉法人理事会（豊橋）ランドホテル
14日 ジエゲム幹部会
15日 医療法人さわらび大開院記念式典

■さわらび荘
7月17日 牛川小学校訪問
18日 介護予防教室（松ト・石川 豊岡地区山民館）
19日 愛知県認知症介護実践者研修会（松田・白井有 名古屋）
20日 介護支援専門員研修（浅見・本江 駒（トピア））
21日 パワーポイント研修（石川 日本福祉大）
24日 地域包括支援センター業務打合せ（松ト 市役所）

25日 参院院議員不在者投票
東海北陸ブロック老人福祉施設研究人会（松田・小清水・柴田天 福井県）
26日 在宅医療福祉担当委員会（施設長・藤原・石川・浅見 第一さわらび荘）
県庁介護支援実践者研修協議会ケルメス委員会（白井 名古屋）
27日 はりばら推進推進会議
ボランティア福祉体験
学習事業担当者研修（藤原 あいトピア）

31日 愛知県社会福祉施設長会議（県社協）
白岩中学校ボランティア体験
8月1日 災害ボランティア協議会（荒瀬・渡辺 あいトピア）
平日介護支援専門員地域ケア会議（浅見）
心身障害者職業生活支援会（小野 中消防署）
6日 青陵中学校福祉体験
7日 宇原綱栄校長ボランティア体験（18日）
8日 牛川・下谷民小委員会包括センター説明会（松ト 浅見・石川 牛川地区市民館）
9日 東海福祉施設設備研究会（施設長 名古屋）
10日 岐阜県介護支援実践者研修協議会東海ブロック会議（施設長 浅見・藤原 あいトピア）
14日 石巻中学校福祉体験

■第二さわらび荘・カサデローザ
7月19日 認可委員会（市役所 辰敷）
24日 参院院議員不在者投票
25日 東海北陸ブロック老人福祉施設研究大会（野崎 出陣 金子 萩原 藤井 豊川 ケアマネ中四研修（東野 名古屋）
小学生ボランティア体験学習協議会（林 名古屋中）

27日 朝食協議交換会（山本施設長）
31日 愛知県社会福祉施設長会議（松ト）
3日 社事推進委員会（山本施設長 東京）
7日 県庁介護支援専門員協議会（井上 白井）
10日 長野県立看護大学学生11名見学

8月1日 「ルールシャロン」コンサート
全日本各地施設人止観会長会（白井）
山本施設長 東京
3日 県庁介護支援専門員協議会（井上 白井）
7日 長野県立看護大学学生11名見学

7月19日 認可委員会（市役所 辰敷）
24日 参院院議員不在者投票
25日 東海北陸ブロック老人福祉施設研究大会（野崎 出陣 金子 萩原 藤井 豊川 ケアマネ中四研修（東野 名古屋）
小学生ボランティア体験学習協議会（林 名古屋中）
27日 朝食協議交換会（山本施設長）
31日 愛知県社会福祉施設長会議（松ト）
3日 社事推進委員会（山本施設長 東京）
7日 県庁介護支援専門員協議会（井上 白井）
10日 長野県立看護大学学生11名見学

地域活動支援センター「なのはな」田原市内に開設

平成19年7月19日、田原市内初の地域活動支援センター「なのはな」を開設しました。「なのはな」は、原則として田原市内に居住している18歳以上の方で（※田原市長が認められた場合、15歳以上の方も利用できます）、以下の項目のいずれかに該当する方が利用できます。

① 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者福祉手帳の交付を受けている方

② 法に規定される知的障害者更生相談所または児童相談所で知的障害と判定を受けた方

③ 障害者自立支援医療（精神通院）の受給の対象となっている方

利用の際には田原市長への申請が必要となります。利用を希望される方は、お気軽にお越し下さい。利用の方はそれぞれのスタイルで構いません。決められた時間や日にちに来なければならぬという規則もありません

ので、自分の好きな時間に自由な形で利



▲フラワーアレンジメント教室

用することができます。

※田原市外にお住まいの18歳以上の方で上記項目に該当し、「なのはな」の利用を希望される方は、お住まいの市町村長の承認が必要となります。詳しくはご相談下さい。

利用者の皆様のニーズに合わせた活動を計画し、地域に根ざした事業所となれるよう、考えていきたいと思っております。（あかね荘 池田）

- 定員 10名 ※送迎サービス有り
- 開設時間 月曜日～金曜日（※隔週土曜日） AM10:00～PM4:00
- 活動内容

曜日	午前	午後
月曜日	園芸	お菓子作り教室
火曜日	スポーツ（エアロビクス等）	手作りを楽しむ（コースト・折り紙等）
水曜日	アート活動	パソコン教室・刺繍
木曜日	調理教室（独立作成→買い物→調理→片付け）	茶会相談
金曜日	アート活動	外出活動
土曜日	<ul style="list-style-type: none"> ● 園芸 市民農園（71・72区画）を借りての活動 ● オンライン体験工房参加（パン・ワイン・お菓子・アイス・クリーム・フラワーアレンジメント・山の草花め・ハーブ等の栽培） 	
月一回活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 「たはら市」※田原市内産地直送の野菜を豊橋市内（蒲郡市内）で販売 ● フラワーアレンジメント教室 ● 茶道教室等 	

- お問い合わせ先 田原市赤羽根町赤上1 赤羽根福祉センター内
地域活動支援センター「なのはな」 連絡先 ☎ 0531-45-3828 池田
090-3484-2452

<p>7月17日 ■あかね荘 主任会議 地主協会より医療ケアホーム見学 絵画教室（鈴木先生） 田原福礼（C） ココロ・フォロワーシップ研修 夏休み水コリ打ち合わせ（中継）</p>	<p>7月24日 ■若葉荘 誕生会、J・C八中部出席（施設共 名古屋） 25日 参議院不仕投標 31日 泉名臨設長会議（施設共 名古屋） 8月1日 炎天運動ボランティア協議会（山田） 2日 名古屋分譲・豊橋商業体験学習会4名 3日 会生交流会 4日 若葉会役員会 9日 ピアガーデン 10日 協議会・若葉会・福礼村公園清掃 13日 野依校区清掃</p>	<p>7月27日 ■珠葉荘 家族会 18日 自治会 20日 屋内消火栓取り扱い訓練 支援センター主催「在宅障害者のための料理教室」（あいつトピア） ピアガーデン 24日 高校生体験ボランティア体験 25日 社会福祉施設非現業職員研修（社会福祉 社会福祉 西卒 愛知県） 26日 自治会役員会 不在者投票 27日 湖西市より親子福祉体験 28日 創作紙芝居発表会 29日 障害者自立支援協議会財労支援専門部 会（松丸） 30日 教職員対家庭学習会にて講師（あいつト ア 田中） 13日 野依校区清掃</p>	<p>8月1日 ■明日香 豊上高校新人教師研修受け入れ（24 日） 東ニセルブ研修会（施設共 岸、中根） 湖西市より親子福祉体験 げんきまつりにて販売 「政市」バスにて披露 30日 東海地区懇談会（施設共 名古屋） 31日 パーキー入会 8月1日 炎天運動ボランティア協議会（鈴木博） 時習館高校ボランティア実習受け入れ （21日） 日本福祉大学実習受け入れ（9日 12日） 自治会 10日 会生会（15日） 13日 会生会</p>	<p>8月28日 援助会 ボフンティア活動日 31日 押谷孝一・手記教室（浅倉さん） たはら山 8月1日 災害活動支援小フ（村越） 2日 自立支援法特別対策委員会（施設共） 豊川養護学校より見学 3日 若葉会役員会（柳） 4日 協議会 6日 相談支援事業者従事者指導者研修（地 施設共 中継 名古屋）（8日） 10日 協議会が主催 11日 可等県開始（19日） 13日 同席者体験</p>	<p>7月17日 ■各施設共通 インドネシア・GRIHINDOの大学・豊橋 技術科学大学より福祉科見学 24日 福祉村クワリー運動 27日 朝倉信弥先生会 30日 万葉中学校福祉体験学習会（あいつト） 8月9日 宗義十八公講 10日 社へ福祉法人理事会</p>
---	--	--	--	--	--



「お遍路さん」

～四国八十八ヶ所めぐり～

第14回

木製の車と万病に効く霊泉



福祉村病院 副院長
伊莉弘之

第二十一番太龍寺から第二十二番白水山（はくすいざん）平等寺（びょうどうじ）まで十二キロ。車で三十分。山奥から里に出てきた。立派な仁王門が迎えてくれる。

本堂に続く石段の登り口の左に小さな祠がある。霊泉「弘法の水」が湧く白水の井戸である。弘法大師が五色の霊雲に導かれ、この地を訪れ薬師如来を感得した。大師は金の薬師如来を刻み、水を探して地面を掘ったところ、如来像の陰から乳色の霊水が湧き出た。

この水は万病に効くといわれる。今も湧き出している。その水をいただきたい。「普通の水じやん」と小三の娘。

石段を登ると本堂。本堂に入ると左側に三台の木製



の車が納められている。広さは一畳もないくらい。の屋根付きの小さな小屋のようである。身体に不自由なところを持ちながらも、四国霊場を巡った人が全快の記念に奉納したといわれている。「お遍路さんをする」と病氣も治る人がいるんだね。すごいね。」と中一の娘。

お遍路さんの最初の二泊三日が終わった。平等寺での参拝を済ませ名古屋の自宅へ。その時は、平成十四年十二月三十一日。

福祉村病院 夏祭りレクリエーション

7月、福祉村病院の各病棟でそれぞれ工夫を凝らした夏祭りが行われました。1病棟は盆踊り、2病棟は夜店風屋台、さくら通り病棟では明日香のさわらび太鼓の演奏をそれぞれ楽しみました。盆踊り、夜店など夏の風物詩を院内で楽しめ、皆さんとても楽しそうでした。化粧をし、浴衣を着て屋台に遊びに行き、昔を懐かしがる方、さわらび太鼓の演奏に感動して涙する方、様々な表情が見られましたが、皆さんとても楽しそうだったことがとても印象的でした。

患者様の笑顔を力に、看護・介護スタッフがよりよいレクリエーションを行うよう、今後も努力してゆきます。（五明）



さわらび会後援会 寄附ご芳名

- H19・7・15～8・14
- 春日井市 牛田茂行氏 壹万円
 - 市内牧野町九〇 小松ウメ氏 伍千円
 - 新城市南畑七四 光田屋勝 壹万円
 - 市内人舟町二一 國三恵菜品 壹万円
 - 市内大清水町字富士見八〇四一 藤松谷建設 壹万円
 - 市内小池町二六一 共和印刷 伍千円
 - 市内高塚町神田六八 田京敬明氏 伍千円
 - 市内中岩田三丁目一三 白井良治氏 壹千円
 - 市内弥生町西豊和九一九 林昭氏 壹万円
 - 市内笠町三〇 縣中野新松商店 壹万円
 - 市内瓜郷町前川五〇一 鈴木弘生氏 壹万円
 - 市内間屋町一五五 藤スズケン 壹万円
 - 市内東田町一五四 滝竹山商店 壹万円
 - 市内飯村北三丁目二六一 滝澤川器械店 壹万円
 - 市内東脇三丁目一一七 森田山利子氏 壹万円
 - 市内白河町一〇〇 中部ガス 壹万円
 - 市内神野埠頭町一 神野臨海 壹万円
 - 市内東新町三二四 四日医工新和 壹万円
 - 市内野依町山中一九一 福祉村病院職員有志 四下千円
 - 匿名希望氏 壹百万円
 - 匿名希望氏 壹拾万円
 - 匿名希望氏 壹拾万円
 - 匿名希望氏 壹拾万円

匿名希望氏 壹万円

宇都宮カズエ様ご家族様 壹百万円

ありがとうございます。第二さわらび荘に在所中の宇都宮カズエ様のご家族様より、さわらび後援会に壹百万円のご寄付がありました。宇都宮様は第二さわらび荘に入所前は七年間シユケムに入所されました。状態もおもつかれ、ご本人様も大変喜んでいらっしゃいます。

その他匿名希望多数の方よりご寄附頂きました。

計 貳百参拾八万円

現在までにご寄附いただきました金額は 八億零千七百参拾壹萬 四千八百七拾伍円

インド福祉村協会 寄附ご芳名

- H19・7・15～8・14
- 名古屋市中区新栄一七七一 東海労働金庫 九下貳百円
 - 名古屋市中区東区高柳町九〇二 清田武男氏 壹万円
 - 大阪府和泉市府中町五一 辻村美智氏 壹千円
 - 名古屋市中区昭和区山花町五〇 医療法人 生寿会 理事 酒井宏氏 伍万円
- 計 七萬貳百円

募金方法(インド福祉村)

振込先
郵便振替・郵便振込 口座番号
〇〇八三〇一六一五〇〇八
インド福祉村協会
連絡先 軽費老人ホーム若菜荘
番四八一―二三八八まで



※印は曲橋善徳銀行を通して

▼簡井五月様
しその葉漬物寄贈※
(珠澤荘)

▼名宝孤口店様
チョコレート寄贈
(明日香)

退職

特別養護老人ホームさわらび荘
施設長 村田 智
ケアハウスカサアローサ
施設長 相澤 尚宏

異動

特別養護老人ホームさわらび荘
施設長 太田 育郎
〔前 珠藻荘施設長〕
身体障害者療護施設 珠藻荘
施設長 江川 和郎
〔前 あかね荘障害者
生活支援センター長〕
ケアハウスカサアローサ
施設長 奈良 昌子
〔前 さわらび荘栄養士〕

さわらび大学講座案内

☆参加費無料で、どなたでも受講できます

- 9月13日(休)「認知症の予防」
医療法人・社会福祉法人さわらび会 理事長 山本 孝之
- 9月27日(休)「成年後見制度について」
さわらび地域包括支援センター 社会福祉士 石川 正敏
- 10月11日(休)「高齢者の栄養支援チーム
-NST(nutrition support team)-」
福祉村病院 医師 赤津 裕康
- 10月25日(休)「みんなの力で支える障害者の地域支援」
なほ荘障害者生活支援センター 相談支援専門員 松井 伸夫

※さわらび大学の開催は、第二木曜日の開催です。
時間は午後2時～4時。会場は、福祉村病院会議室です。
尚、都合により日程及び講師が変更となる場合がございますのでご了承ください。

◎お問い合わせ・受講申し込み
軽費老人ホーム若菜荘
☎(0532)48-1138 ㊟(0532)48-2365

平成19年度 合同慰霊祭

8月17日(金)、福祉村公園内「瑞恵寺」において合同慰霊祭がしめやかに執り行われました。
天寿を全うされた後、医学発展のためにご献体くださった方々のご冥福をお祈り申し上げます。



秋を彩る ■ Decorate Autumn



●「中村豪志作「大藤錦」横写 加筆部分あり」 古瀬 てつ (カサデローザ)

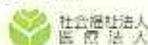
みんなの力でみんなの幸せ

2007年9月1日発行 早蕨 第413号

(昭和62年9月21日第三種郵便物認可)

充実した医療と福祉

- 特別高齢老人ホーム さわらび荘 ☎(0532)54-3501
- 特別養護老人ホーム 第二さわらび荘 ☎(0532)37-1209
- ケアハウスカサデローザ ☎(0532)37-1209
- 軽費老人ホーム 若葉荘 ☎(0532)48-1138
- 身体障害者福祉施設 珠璣荘 ☎(0532)47-1050
- 知的障害者更生施設 あかね荘 ☎(0532)48-2825
- 福祉村病院 ☎(0532)46-7511
- 知的障害者福祉施設 明日香 ☎(0532)46-6579
- 福祉村障害福祉サービス事業所 しろがね ☎(0532)48-1032
- 福祉コンビニ(東豊町) ☎(0532)69-5666
- 第二福祉コンビニ弥生 ☎(0532)38-9090
- さわらび会障害者居宅介護事業所 田原 ☎(0531)24-0722
- 福祉村老人保健施設 シュゲム ☎(0532)46-7501



社会福祉法人 さわらび会
医療法人

編集責任者: 武田和敬 印刷: 共和印刷所 定価: 100円

編集後記

昨年、社会福祉法人さわらび会が創立30周年を迎えたのに続き、本年、医療法人さわらび会が創立45周年を迎えることができました。そして今回、その記念講演会及び懇親会を無事に開催することができました。も、ひとえに皆様の御支援のおかげであり、深く感謝申し上げます。私たちは、みんなの力でみんなの幸せを実現するために、今までがんばってきましたが、今後もそのことに何ら変わりはありませんし、医療と福祉の連携が強く叫ばれる現在、私共の責務は益々重大であると認識しています。今後私共の活動や取り組みは、病院の院内報として35年程前スタートしたこの「さわらび」を通じて報告させていただきたいと思っております。

(武田)